

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和6年3月20日

事業所名 子どもデイサービスmomo

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			利用者の特性に応じ日々対応している。	職員の支援スペースの確保は今後の課題である。
	2 職員の配置数は適切である	○			利用者数に応じた人員配置を心掛けている。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			限られたスペース内ではあるが、利用者毎の特性に応じた配置、設備の設置など気を付けている。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○			職員個人の目標に対してのフォローを行うようにしている。	目標設定の段階での提言等をもっと活性化してよい。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			毎期実施しており、意見評価等は共有し課題克服を図っている。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			ホームページ上での公開を適切に行っている。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		今後の実施を検討中。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			研修参加による人員欠如等がないように工夫している。	研修自体の存在に気付いていない事がある為、情報収集をもっと積極的に行いたい。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			利用者、保護者のニーズを聞き取り、課題や要望に応じて現実的に可能な部分から取り組んでいる。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		チーム内での意見の共有ができるよう風通しのよい職場風土の定着を意識している。	標準化されたツールはない。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○			何をどうするか具体性と内容については簡潔に提示できるように気を付けている。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			発達段階や特性、ニーズに応じた活動を実施している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			平日出来ないことを休日に行うようにしている。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			発達段階や特性、ニーズに応じた計画を実施している。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			始業ミーティングにてどうするかを確認している。	各人で意識やテンションに偏りが無いよう配慮が必要な時もある。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			終業ミーティングにて課題、問題点を抽出しどうすればよいか検討している。	同上
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			計画の作成等に活かせるよう記録は日々行っている。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			適切に行われている。	
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○			適切に行われている。	
	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			適切に行われている。	
	21 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○			適切に行われている。	

機関や保護者との	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		医師の指示の基にケアを実施できるよう年1回の指示書の更新や変化時の対応等で不備がないよう工夫している。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		実施数が少ないが機会時は良く出来ていた。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		適切に行われている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		利用者の事については相互意見交換が出来ている。	研修については出来ていないが意見交換会等の集まりから検討したい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	保護者のニーズとして外部との接触を嫌う方が多い為、現状は行っていない。	過去には積極的に行っていたが、感染症等のリスクを考慮すると現実的ではない。
	27	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している		○		協議会での活動量は限定的かつ少数でありもっと意義のあるものにしていく必要がある。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時等で保護者と接する機会があれば積極的に意見を聞いている。	
保護者への説明責任	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		一部の保護者には環境に応じた配慮は行っているが、明確にプログラムなどは提示していない。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に特に時間をかけて説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		意見があればその都度対応が出来ている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者の負担等を配慮している為、行っていない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		適切に行われている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		活動の報告は会報やsnsを通じ行っている。	
	35	個人情報に十分注意している	○		適切に管理している。	
非常時等の対応	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		よく出来ている。保護者の意見を参考にしている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		過去には積極的に行っていたが感染症等のリスクを考慮すると現実的ではない。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		適切に行われている。	定着化が出来るよう定期的に見直しや確認の時間を設けたい。またレベルの偏りがないよう統一できるような配慮も必要である。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		適切に行われている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		適切に行われている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		適切に行われている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		適切に行われている。	

	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		適切に行われている。	過去事例に学び、再発防止を図るための勉強会を実施検討中。	
--	----	---------------------------	---	--	------------	------------------------------	--

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和6年3月20日

事業所名 子どもデイサービスsmile

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	<input type="radio"/>			利用者の特性に応じ日々対応している。	職員の支援スペースの確保は今後の課題である。
	2	職員の配置数は適切である	<input type="radio"/>			利用者数に応じた人員配置を心掛けている。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	<input type="radio"/>			限られたスペース内ではあるが、利用者毎の特性に応じた配置、設備の設置など気を付けている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	<input type="radio"/>			職員個人の目標に対してのフォローを行うようにしている。	目標設定の段階での提言等をもっと活性化してよい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	<input type="radio"/>			毎期実施しており、意見評価等は共有し課題克服を図っている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	<input type="radio"/>			ホームページ上での公開を適切に行っている。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			<input type="radio"/>		今後の実施を検討中。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	<input type="radio"/>			研修参加による人員欠如等がないように工夫している。	研修自体の存在に気付いていない事がある為、情報収集をもっと積極的に行いたい。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	<input type="radio"/>			利用者、保護者のニーズを聞き取り、課題や要望に応じて現実的に可能な部分から取り組んでいる。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		<input type="radio"/>		チーム内での意見の共有ができるよう風通しのよい職場風土の定着を意識している。	標準化されたツールはない。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	<input type="radio"/>			何をどうするかの実体性と内容については簡潔に提示できるように気を付けている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	<input type="radio"/>			発達段階や特性、ニーズに応じた活動を実施している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	<input type="radio"/>			平日出来ないことを休日に行うようにしている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	<input type="radio"/>			発達段階や特性、ニーズに応じた計画を実施している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	<input type="radio"/>			始業ミーティングにてどうするかを確認している。	各人で意識やテンションに偏りが無いよう配慮が必要な時もある。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	<input type="radio"/>			終業ミーティングにて課題、問題点を抽出しどうすればよいか検討している。	同上
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	<input type="radio"/>			計画の作成等に活かせるよう記録は日々行っている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	<input type="radio"/>			適切に行われている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	<input type="radio"/>			適切に行われている。	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	<input type="radio"/>			適切に行われている。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	<input type="radio"/>			適切に行われている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	<input type="radio"/>			医師の指示の基にケアを実施できるよう年1回の指示書の更新や変化時の対応等で不備がないよう工夫している。	

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		実施数が少ないが機会時は良く出来ていた。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		適切に行われている。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○	利用者の事については相互意見交換が出来ている。	研修については出来ていないが意見交換会等の集まりから検討したい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	保護者のニーズとして外部との接触を嫌う方が多い為、現状は行っていない。	過去には積極的に行っていたが、感染症等のリスクを考慮すると現実的ではない。
	27	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している		○		協議会での活動量は限定的かつ少数でありもっと意義のあるものにしていく必要がある。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時等で保護者と接する機会があれば積極的に意見を聞いている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		一部の保護者には環境に応じた配慮は行っているが、明確にプログラムなどは提示していない。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に特に時間をかけて説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		意見があればその都度対応が出来ている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者の負担等を配慮している為、行っていない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		適切に行われている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		活動の報告は会報やsnsを通じ行っている。	
	35	個人情報に十分注意している	○		適切に管理している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		よく出来ている。保護者の意見を参考にしている。	
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		過去には積極的に行っていたが感染症等のリスクを考慮すると現実的ではない。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		適切に行われている。	定着化出来るよう定期的に見直しや確認の時間を設けたい。またレベルの備りがないよう統一できるような配慮も必要である。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		適切に行われている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		適切に行われている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		適切に行われている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		適切に行われている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		適切に行われている。	過去事例に学び、再発防止を図るための勉強会を実施検討中。